



報道機関 各位

記者発表資料

令和元年5月24日（金）

問い合わせ先：国際芸術祭開催準備室

室長：杉本

担当：小暮、吉田、松本

電話：048-829-1225

内線：2815～2820

さいたま国際芸術祭2020の公募キュレーターが決定しました！！

～旧大宮図書館を、新進気鋭の若手キュレーターが彩ります～

さいたま国際芸術祭2020「Art Sightama」における、旧大宮図書館で行われるアートプロジェクトのキュレーターが、公募の結果、戸塚 愛美（とつか まなみ）氏に決定しました。さいたま市ゆかりの若手キュレーターが、旧大宮図書館でのアートプロジェクトを盛り上げます！

旧大宮図書館では、これまで内外の国際芸術祭ではあまり紹介されることのなかったアーティストに焦点をあて、活躍の場を提供するアートプロジェクトを行います。“新たな才能を発掘する”という趣旨から、未来の活躍が期待される作家の作品を紹介します。

## ■ 氏名・略歴



©小竹 良来

### 【戸塚愛美（とつか まなみ）】

1992年千葉県生まれ。武蔵野美術大学芸術文化学科卒業。

キュレーター／アートマネージャー。北千住エリアを中心とした地域型アートプロジェクト「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」事務局、一夜限りのアートイベント「六本木アートナイト」実行委員会事務局など、地域に根ざした芸術文化事業に携わる。ライフワークとして「なぜその人がその人たりえるのか」という問いについて考える。

### ●さいたま国際芸術祭にかける思い●

わたしにとって特に大宮エリアは、10代のころの遊び場や通学路として、とても親しい場所でした。大宮で芸術に触れる機会が少なかった自分自身の体験から、特に感受性豊かな年頃の方々に芸術祭からたくさんを感じてもらえるとうれしいです。このプロジェクトでは、芸術祭の全体のテーマである「花」から想像したこと、さいたま市の街から感じたもの、そして伝えたいメッセージも織り交ぜ、日常を少しだけゆるやかに解きほぐすような、多様な価値観を提示していきたいと考えています。旧大宮図書館が、まだまだ知られていないアーティストの活躍の場や今後の活動を広げるきっかけとなる場となることと同時に、さいたまの奥深い面白さを伝えていく舞台となることを目指しています。



■ 遠山ディレクターが期待していること



さいたま国際芸術祭2020では、「多彩な人材と発想の参加」を重要視しています。今回のキュレーターの公募では、戸塚愛美さんというキュレーターと出会うことができました。彼女の伸びやかで繊細な発想から、新しいさいたまへの眼差しと展開が生まれることを期待しつつ、彼女自身の可能性が開かれる機会となってくれることを願っています。

時に悩みながらも楽しげに投げかけられてくる彼女のアイデア、そして彼女自身の物語とアーティストによって会場となる旧大宮図書館の世界が紡がれていくことでしょう。

■ さいたま国際芸術祭2020について

●開催期間

2020年3月14日(土)―5月17日(日) [65日間] (予定)

●テーマ

「花 / flower」

～アーティストが展開する様々な花の表現が、さいたまの新しい風景に～  
3月中旬から5月中旬は、ちょうど、花々が咲き、新緑が芽吹く時期です。  
さいたま国際芸術祭2020は、個別のプロジェクトの足し算ではない  
総合的な芸術の場として、まさに花壇が街の中に作られていくように、  
さいたまならではの花が咲く芸術祭を目指します。

●会場

\*メインエリア

(大宮エリア)

旧大宮区役所、旧大宮図書館、大宮盆栽美術館、鉄道博物館

(その他)

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉県立近代美術館、うらわ美術館、

さいたま市文化センター、岩槻人形博物館(開館予定)、その他市内各所

●公式WEBサイトURL

<https://art-sightama.jp/>

